

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106332		
法人名	社会福祉法人 岡山中央福祉会		
事業所名	グループホーム さっちゃん家		
所在地	岡山市東区金田819番地		
自己評価作成日	平成22年1月31日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370106332&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成22年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活の場を意識して、個々の生活リズムを尊重している。(タイムスケジュールはなく、起床時間も自由である)
 古民家を改装し馴染みやすく、地域の一員として関わりがあり近隣との関係が良い。利用者・職員共に支え合う意識を持ち、笑顔で生き生きと生活している。
 「ここはいい所」と言われる利用者の言葉を励みに、最高の認知症ケアの実践を目指す職員を育成する努力をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「さっちゃん家通信」というたよりを作っている。その担当者が全職員から自分の気持を募集した。17名の職員の気持は、笑顔、幸福、ニコニコ、明るく、楽しく、心穏やか、健康、元気等のキーワードとなり、そこから平成21年のテーマを「笑(えがお)」にしたことが通信に掲載され、家族、地域、関係機関に配布された。まさにこのホームの自然な姿の象徴であり、職員も問われれば自然に前記のキーワードが身についていると思う。「利用者本位のケアと生活」と「地域密着型のケアとサービス事業」は6年前の設立以来一貫して実行してきたことも、このホームは他のモデルとして誇れる元祖である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針を全員で定め総括を行い振り返りを行っている。事業所の使命や方針を全員が意識し、実践している。	母体法人の理念を基に全職員で話し合い、ホーム独自の理念“その人がその人らしく生きる”を作った。開設して5年経過した今もその思いに全くぶれはなく、のんびり好きなようにその人の生活リズム最優先の支援を行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、行事に参加したり、招いたりしている。地域の保育園や近隣との交流がある。おすそ分けなど親しくしている。	近所の人にはホーム畑の苗植えや庭の管理、草取りを手伝い、地震があれば心配して駆け付けてくれる。利用者や職員の名前も全て覚えていて、親しくおしゃべりして帰る。地域の中の一軒の家としてごく普通の近所付き合いができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の相談窓口として相談や認知症ケアの啓発を行っている。友の会等で学習会や見学会なども行い、介護体験の受け入れもしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営、経営、利用者の暮らし等の報告を行い、意見を反映している。評価結果についても報告し、意見をもらうようにしている。	町内会長・近所の人・家族・民生委員・地域包括サブセンター職員・母体法人友の会会長等が出席し、2ヶ月に1回定例化した日程で運営推進会議を開催している。地域行事の誘いがあり、ホームが困っていれば助けてくれるなど会議開催効果も挙がっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談はすぐに応じてもらえるが、実情や取り組み等は中々伝えられる場がない。	何かあれば市の担当者に相談し、指導・助言を受けている。市町村はその都度よく対応してくれているが、まだ運営推進会議には出席してもらえていないので、今後は会議参加を依頼し、ホームの実情を理解してもらいながら連携を深めていきたいと考えている。	ホームは市の担当者の運営推進会議出席依頼を検討しているため、市も是非これに応えて、より良いサービス提供を目指して協力関係を構築して欲しい。(外部評価機関意見)
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居時に身体拘束をしない取り組みと説明を行っている。徘徊や外へ出る利用者には一緒に歩く支援をしている。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、危ないから座ってととか、駄目だと制止したり、テレビをずっと見せ続けるのも拘束ではないか等、身体拘束だけでなく言葉や精神の拘束についても日頃から職員間で具体的に話し合っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての学習会をしたり、日々のケアの中で身体虐待だけでなく言葉や精神的虐待の意識を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度の必要な利用者はいないが、今後は研修に参加し、必要な時は情報提供し支援出来るよう学習していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をし、費用、退去の条件、リスク、個人情報保護等同意書をもらう。利用料の改定時にも家族会へ説明、相談を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望を出しやすいように家族会での意見を聞いている。面会での小さな事も要望ノートに記録し、情報の共有をしている。利用者には繰り返し訪ねるようにしている。	ホームの広報紙や毎月の個別の便りを送付して様子を伝え、何かあれば電話連絡し、面会に来た家族ともよく話し合っている。運営推進会議に家族の出席もあるので、公の発言の場も提供出来ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のアイデアや改善案など出せるようシートや会議をしている。	毎月の職員会議以外に、必要に応じてその都度ミニミーティングを行い、カンファレンス会議の後や日々の申し送り時にもよく話し合っている。職員は活発に意見交換して気掛かりを相談し合い、チームワークも良く明るい。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も職員の能力や職場環境を把握しており、メンタル面の相談窓口も置いてある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での研修・学習の機会があり、外部研修や職場学習を行い、全員に報告されている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への見学や、研修の受け入れをしている。グループホーム協会に加入し、交流や学習を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問、面接を行い、本人の状態を把握しながら家族や本人の想いを聞き、職員が情報を共有している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をしっかり聞いて、丁寧な説明をする。利用開始後はこちらから状態を電話等で伝えるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時に要望等を聞き、こちらで出来る対応の説明や必要な支援の相談を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などを一緒にしながら、本人の話に耳を傾けている。利用者が知っている事を訊いたり、得意な事を頼んだりしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙で毎月様子を伝えたり、面会時には職員も一緒にお茶を飲みながら思いを訊いたり伝えている。家族と一緒にの行事を多くつくっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や主治医の往診を受けたり、昔の友人の面会や電話、手紙の援助を行っている。	近隣出身の利用者が殆んどなので、学区の運動会など地域行事に出掛けると友人・知人に声を掛けられ、日々の買物や近くの診療所に受診に行っても知り合いに会う等、日常的に顔馴染みと自然な交流が来ている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員間で情報連携し共有している。トラブルの多い利用者間の関係がうまくいくように間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの暮らしの継続性が損なわれないように支援の内容や注意が必要な点についての情報提供をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の表情や発せられる言葉や家族から情報を得る。個人記録に記録し、気づきや思いの共有をしている。	「おはよう、よう寝れた？ 昨日は夜12時位まで本読んどったね」ゆっくり朝寝坊して起きてきた人に職員が声を掛ける。タイムスケジュールは決めずにその人の気持を尊重した対応がホームの方針である。	利用者の一言、一動作から職員が察知できる感受性や察知能力を高めてもらい、利用者や家族の気持ちを受け止める事の出来る感性を職員に高めていってほしいと思う。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会のたびに生活歴や好きな事を聞く様にしている。馴染みの物を持ってきてもらう事もある。把握する事で本人の理解に繋がる。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解するとともに身体・精神面を情報共有している。ケアや日頃の関わりの中で出来る事、出来ない事の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスを全員で行い、小さな気づきなど意見交換する。家族へは説明を行い、要望等あればプランに盛り込んでいる。	情報を基に全職員で相談し、本人・家族と良く話し合っってプランを作成している。直ぐに見えるように毎日の個人記録と共にプランを現場に置いて、日々意識しながら支援し、何かあればその都度現状に即して変更している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、排せつ、バイタルチェック表の随時の記録や表情、言葉のエピソード等特に伝える事項は色を変えて記録する等工夫している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夜間の面会や当日の外泊も自由、居室に家族が泊ることも自由。誕生日には一人ずつのお祝いの仕方を家族と相談する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には地域包括支援センター職員や町内会長、地域ボランティアの参加がある。公民館利用や地域の行事支援を受けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に意向を確認し、家族の協力や近隣のかかりつけ医の往診を受けたり、急傷病時の受診の支援や医師との連携を図っている。	出来る人には家族に受診をお願いしているが、そうでない人や緊急時にはホームで受診支援をしているので、かかりつけ医との関係も構築できている。ホームの協力医や主治医が定期的に往診に来て適切な支援をしてくれている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携を行っており、日常の様子や特変を伝えている。急変時や日頃の指示、相談を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ケアや状態の提供を行い、見舞いや家族との連絡を行っている。退院時には医師や看護師からの助言、指導も受けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と利用者の状態を確認し、ここでの対応出来ることの説明をしている。職員間で看取りや重度化についての話し合いを行っている。	今のところ該当するケースがないので、ターミナル支援の経験はないが、本人・家族の強い希望があり、医療的な問題もなく、主治医や家族の協力も得られるならば、職員間でもよく相談してできる範囲で可能な限りの支援を行いたいと考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は緊急マニュアルに基づき対応している。応急手当や対応等の学習の場を増やしたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練を年2回行い、消火器や自動通報の使い方を熟知している。今後は地域住民の参加の依頼や地震水害時の訓練もしたい。	隣接する同一母体法人のデイサービスの施設と一緒に、利用者も参加した避難訓練を実施した。運営推進会議で避難訓練の報告をすると、火災時には近所にサイレンを鳴らしてはどうかと提案が出る等、災害時の協力関係についても話し合いが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシー保護について学習の場を持ち、利用者の気持ちに沿う、言葉掛けや対応に努めている。	自分だったら家族だったらと、常に自分に置き換えてそうして欲しいと思う支援をしようといつも話し合っている。中傷癖のある人の言葉に傷つかないよう職員が間に入って心配りしたり、プライドの高い人への声かけを配慮する等、その人に合った対応に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示出来ない利用者には表情や仕草などからサインを察知するようにし、言葉掛けには、選択、自己決定できる言葉にしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールを設けず自由な時間の起床、就寝にしている。行きたい所への支援や趣味活動の支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んだり、鏡を見て整容してもらう。化粧水をつけたり、アクセサリー等、個人の好きなスタイルの支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を訊いたり、調理に参加したりしている。出来ない人には味を見てもらったり、食器拭き等をお願いしている。	自分で食事できる人とそうでない人のテーブルを分け、違和感なく食事できるよう配慮していた。きざみ等食べやすいようその人に合わせた食事を、介助の必要な人の傍らには職員が付いて皆で談笑しながら美味しく食べていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録して、好みや健康状態の把握に努めている。時間の配慮をしたり、食べやすいように工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力できる方には声掛けをし、義歯の洗浄やうがいをやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムに合わせさり気ない声掛けや誘導を行っている。夜間はポータブルやおむつの人も日中はトイレに行かされている。	尿意や便意のない利用者がほとんどだが、各自の排泄パターンを把握し、タイミングを見て声かけトイレ誘導していた。本人の気持ちを聞きながら無理強いせず、出来る限りトイレでの排泄支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を把握し、身体を動かしたり、水分やヨーグルトの摂取に努めている。便秘予防の重要性について話し合っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる利用者には言葉掛けや相性の配慮をしたり、家族に誘ってもらい協力を依頼したり、時間にゆとりを持たせている。	ホームは利用者の気持ちや生活のリズムに合わせた支援を心掛けているので、入浴拒否の場合はタイミングをずらせて声をかけたり、日を変える等柔軟な対応をして、その気になるまで気長に付き合っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠に繋がるように支援しているが、不眠の人には一緒にお茶を飲んだり、寄り添いを朝までしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないよう気を付け、処方された薬名、効能、副作用等の確認を行い、状態を記録、医師に伝えている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを協力していただいたり、要望のあるところへの支援を個別に行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の喫茶店に出掛けたり、公園での散歩、戸外での昼食など体調、気候に合わせて支援している。	日常的な散歩や買物以外に、初詣や花見など季節の行楽や地元の祭り・運動会等地域行事、その日その時その気になったらドライブ等にも出掛けている。利用者の重度化は避けられないが、出来る限りの外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる方には金銭を所持され、買物時に自分で支払っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便局に行ってハガキを買い年賀状を出したり、家族に手紙を出している。電話でのやり取りもしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温に気を付け、季節の花を利用者と一緒に飾る等している。	利用者の書道作品や写真、手作りカレンダーや天照大神宮のお札、雛人形などを飾り親しみやすい感じがする。食卓以外にテレビを囲んだ長ソファや、仲良しが椅子に座ってお喋りできるスペースもあり、利用者はそれぞれお気に入りの場所で寛いでいた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々家具の配置を変え、気の合う利用者同士が話せるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や思い出の品などを自由に持ってきて貰って、居心地の良ように家族と一緒に部屋の整理を行っている。	縫いぐるみや写真を飾ったり、タンスやドレッサー等を持ち込む人もいた。花の好きな人の部屋は、生け花や造花等で花一杯のその人らしさに溢れている。ライフスタイルに合わせベッドや布団を使用していた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺だけでなく掴まれる家具の検討をしたり、危険個所の点検を行っている。		